

みやぎ学校給食だより

ゆたかな心を育て、じょうぶな体をつくる学校給食

第1号

平成25年3月

編集・発行 公益財団法人宮城県学校給食会



ごあいさつ

公益財団法人宮城県学校給食会
理事長 山本 照夫

昭和21年12月に本会の前身である学校給食事業部が県教育部体育課内に設置され、その後、名称変遷の後、昭和31年3月より財団法人宮城県学校給食会として56年間、学校給食を支える団体として活動してまいりました。そして、この度の公益法人制度改革に際して、これまでの公益活動が認められ、平成24年4月1日より公益財団法人宮城県学校給食会として新しく出発いたしました。

これまで、本会をご支援していただきました学校給食関係の皆様に感謝申し上げますと共に、これからも学校給食の充実のために活動していきたい、協力していきたいと願っています。

公益財団法人1年目として新たな重点事業を行っています。1つ目は、安全安心な物資供給のための検査体制の充実です。これまで以上に、委託加工場への衛生検査等を充実させ、また、細菌検査、放射能検査、遺伝子検査、残留農薬検査、品位検査、空間線量検査を充実させています。2つ目は、食育支援の充実です。8月より行事食でのオードブル皿等の貸出しを行っています。来年度は、食育紙芝居、手洗いチェッカーの貸出しを予定しています。

平成19年2月の「みやぎ学校給食だより」の発行を最後に休刊していました本紙の6年ぶりの復刊も重点事業の1つです。平成25年度以降は、年2回の発行を行っていきたくと考えています。

結びに、本会を支えていただいております皆様に、今後とも変わらないご支援とご協力をお願い申し上げます、新法人の出発と本紙復刊のご挨拶といたします。



宮城県立利府支援学校

目次

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ○理事長挨拶・・・・・・・・・・・・・1 | ○平成24年度文部科学大臣表彰・・・・・・・・6 |
| ○県教委スポーツ健康課課長挨拶・・・・・・2 | 優良校表彰・個人表彰 |
| 「学校給食に期待されること」 | ○第63回全国学校給食研究協議大会 |
| ○栄養士会新会長挨拶・・・・・・・・・・・・・2 | に参加して・・・・・・・・・・・・・7 |
| ○岩沼中学校における食に関する指導・・・・3 | ○宮城県立利府支援学校の給食・・・・・・・・8 |
| ○給食センター紹介・・・・・・・・・・・・・4～5 | ○安全安心のための取り組み・・・・・・・・8 |



「学校給食に期待されること」

宮城県教育庁スポーツ健康課
課長 松坂 孝

平成21年に学校給食法が一部改正され、学校給食の目標は従来の「栄養改善」から「食育」へと移行され、学校給食の役割が、学校教育の中で行われる教育活動として、その重要性がより強まってきております。本県では、宮城の特性を生かした食育を推進するため「五感を磨いで、みやぎの食をいただきます」をキャッチフレーズとして、平成18年度から宮城県食育推進プランを定め、積極的に取り組んできたところです。

そうした中、平成23年3月に東日本大震災が発生し、給食施設や製パン工場、炊飯委託業者や牛乳工場等が、沿岸部だけでなく、内陸部においても甚大な被害を受けました。発災当時は、新学期の給食再開時にすべての子どもたちに少なくとも1個のパンと牛乳を届けられるように関係機関との調整をし、委託業者各位の御協力のもと、平成23年度の給食を開始することができました。また、震災当時の状況から、全県での給食再開には数年かかるのではないかと危惧したところではありますが、多方面からの御支援、各施設の御努力などにより、平成24年4月からは、ほぼ全県において完全給食の実施が可能になりましたことは、大変喜ばしく、関係各位に対し深く感謝申し上げる次第です。

今後更に学校給食が、食育の重要な柱の一つとしてその役割を果たしていくためには、衛生管理に基づいた安全で安心な食事であることはもちろんのこと、宮城の豊かな食材を生かしたおいしく魅力的なものであることが必要です。震災を経て、学校給食の果たす役割は大きく増しており、ますます期待されるものと考えています。

このたび、宮城県学校給食会は、学校教育活動の一環として実施される学校給食を支援する、公益財団法人として新たなスタートを切りました。県教育委員会としましては、今後とも、本震災での経験も生かしながら一層の連携を図り、本県における学校給食の充実・発展並びに食育の更なる推進に努めてまいり所存ですので皆様方の更なる御支援・御協力をお願いいたします。



ごあいさつ

宮城県連合小・中学校教育研究会学校給食部会
栄養教諭・学校栄養職員部会長 藤木 よし子

東日本大震災より二年が過ぎようとしています。県内では、ほぼ学校給食が再開されましたが、被災施設の食数分も受け持っている施設や、ローテーションで学校給食と外注弁当を実施せざるを得ない学校もあり、震災前の状態に戻るには、まだまだ時間を必要とするようです。早い完全復旧を願います。

全国より東日本大震災時の話が聞きたいと、多くの講演依頼を受けました。震災時に多くの方々から御支援いただいたお礼として、自分たちの体験を伝えるべきだと考え、会員の協力を得て講師派遣を行いました。勤務地やその市町村に講演内容を伝え、防災対策に役立てたいといった感想が寄せられ、私たちの体験を役立てていただけたように思います。

加えて、それぞれの勤務地でがんばっている仲間の思いは自分たちで発信しなければと考え、昨年9月に開催された第59回日本栄養改善学会に記録集のアンケート結果から2題を発表しました。その時に、震災時の学校給食の対応を初めて知ったという驚きと、震災直後に調査を実施できる会員の結束力の強さに賞賛の言葉をいただきました。

栄養教諭や学校栄養職員の多くが勤務地に一人だけの職種であり、その事務量も膨大であることから、黙々と仕事をこなすことで終わってしまいがちです。給食の献立に込めた思いも、子どもたちへ話したり、お便りに表現しないと伝わらなかったりと、私たちの行っている仕事も発信しなければ伝わらないし、理解してもらえないのではないのでしょうか。発信が他職種の方の理解や協力につながり、発信により私たち自身の仕事を積み重ねて一歩前へ進めることができるように、当たり前と思わず「こんなことしているよ」と、日常のことから発信を始めたものです。また、そんな仲間が増えていくことを願っています。

岩沼中学校における食に関する指導

岩沼市立岩沼中学校
栄養教諭 横山恭子

1 はじめに

本校では、校訓である「自立」と「友愛」を基に食育全体計画を作成し、「学校給食」を食に関する指導の基礎としている。各教科・領域において給食を生きた教材として活用した食の指導を行うと共に、農業体験や部活動でのスポーツ栄養指導などを通して、「食」に関する興味・関心・意欲を高めることで教育目標の具現化を目指している。

(1) 岩沼市立岩沼中学校の概要

給食数	12学級 399名〈生徒のみ〉
職員	校長1名、教頭1名、教職員32名 栄養教諭1名、調理員4名
給食形態	完全給食 週5日 (米飯3回、パン2回)
給食費	1食単価 315円

(平成25年1月1日現在)

2 校内の組織

岩沼中学校には4つの指導委員会があり、その中の1つに保健給食指導委員会がある。この会は、毎月1回開催され、健康状況や食育及び給食指導、清掃状況等について、反省や目標等を協議及び検討し、職員会議へ提案している。全職員が内容を把握することで、食育の推進を着実に進めることができている。

3 具体的な取組例

(1) 教科等における食に関する指導

① 技術・家庭科でのT・T指導

H23年に実施した「食生活実態調査」結果より、生徒の朝食が野菜摂取不足傾向であることを踏まえ、「野菜と調理法について考えよう」(2学年)という単元では、野菜の必要性を十分に理解させ、自ら進んで野菜料理を準備できる力を身につけさせるために野菜料理を考えさせ、調理実習も行っている。

生徒にとって効果的な指導を行うため、技術・家庭科教員との連携を密にし、計画的に指導を行うことで、栄養教諭としての専門性を十分に生かした食の指導を進めることができている。



(2) 朝の活動時間や学年集会における指導

① 「骨の成長とカルシウムについて」(3学年)

部活動を引退し、運動量の減る3年生を対象にカルシウム摂取と運動に関する指導を行っている。一日に必要なカルシウム摂取量をコップに印をつけ、ビーズをカルシウムにたとえて示すことで、よりわかりやすい指導となるよう努めている。



② 「咀嚼指導」(1学年)

いい歯の日にちなみ、11月に指導及びカミカミセンサーを使用した実体験を実施した。



ペンフィールドマップを用いて、咀嚼と脳との関係を理解させ、噛むことの大切さを改めて考えさせる機会としている。

生徒への食に関する指導内容を給食試食会等で保護者へ直接伝えることにより、給食だよりなど、文字で伝える以上に保護者の食に対する意識や関心が高まり、効果的であると感じている。

4 おわりに

昨年、大分県で行われた全国学校給食研究協議大会の分科会にて、森泉食育調査官より「実態を把握したうえでの指導を組織的かつ計画的に、現実的な方法で指導を行っていることがよい。」と評価をいただいた。今後も日々の給食を大切にしながら、全職員と連携し、継続的な食育指導の取組を充実させていきたい。

給食センター紹介

東松島市学校給食センター（愛称：ハッピート）の紹介

1 東松島市の概要

宮城県東松島市は、宮城県東部に位置し、仙台市から東に 30km の位置にあります。東は石巻市、西は日本三景松島のある松島町に接し、南は太平洋に面しています。

東北地方では、比較的温暖で、降雨・降雪の少ない地域です。市の東部には肥沃な田園地帯が広がり、稲作や特産の長ねぎ、小松菜、きゅうりなどの栽培が盛んである一方、太平洋に面した南部は漁業が盛んで、牡蠣や海苔、わかめの養殖が行われています。中でも東松島市の焼き海苔は皇室献上品にもされています。

2 施設概要

東松島市学校給食センターは、老朽化した市内 2 つの学校給食共同調理場を統合した代替施設として PFI 事業方式により整備し、平成 24 年 4 月から稼働しました。調理・配送業務と施設の維持管理業務を民間企業である（株）東松島スクールランチサービスに委託しています。

所在地：東松島市川下字内響 131 番地 97

建物構造：鉄筋コンクリート造 2 階

延床面積：2,870.03 m²

調理能力：4,500 食/日 アレルギー対応食 最大 100 食/日

調理方式：ドライシステム

竣工年月：平成 24 年 2 月

供用開始：平成 24 年 4 月

受配校：小学校 10 校、中学校 4 校（平成 25 年 4 月からは、統合により小学校 9 校、中学校 3 校）

3 施設の特徴

当センターは、衛生管理に万全に期する HACCP 対応の施設です。ドライシステムを基本に、汚染作業区域と非汚染作業区域とに完全に分離し、検収室や下処理室も肉・魚と野菜の専用の部屋に分け、二次汚染防止を徹底しております。洗浄作業では、コンテナ洗浄機やコンテナを利用した食器消毒保管装置等を導入し、衛生面への配慮とともに、作業の効率化や省力化も図っております。

東松島市学校給食センター



コンテナ洗浄機



コンテナ食器消毒保管装置



食器洗浄機



アレルギー調理室では、現在「卵」と「乳製品」のアレルゲンをもつ小学生までの児童を対象に、食物アレルギー対応食を調理し、提供しています。25年度からは、中学生までに範囲を拡大する予定です。

アレルギー調理室



アレルギー対応食調理



2階には、調理実習室や会議室、見学ロビー等の食育ギャラリーがあります。見学ロビーからは、調理作業の見学や実物の調理機器に触れることができます。また、会議室では、栄養教諭・栄養職員からの食に関する講話や給食センターの紹介DVDの上映等も行っております。

食育ギャラリー



4 食育への取り組み

東松島市学校給食センターでは、4,000食という大量調理でありながらも、一つ一つ手をかけ、出来るだけ手作りの給食づくりを目指しています。また、地域の食材を多く取り入れようと、JAいしのまきと連携して、年間を通して市内で生産されている「長ねぎ」「小松菜」「みつば」「チンゲンサイ」を使用しています。その他、季節に応じた野菜や東松島産の大豆からつくられた豆腐も使用しています。そして、これら地域食材を多く用いた「イート給食の日」を年3回目標に実施しています。その際は、各学校へ給食一口メモ等のおたよりを配布し、地域食材への関心をもたせるきっかけとしています。

イート給食



食育の充実を図るため、当センターの栄養教諭・栄養職員は、年3回ずつ各学校を訪問し、児童生徒へ食に関する様々な指導を行っています。また、学校と連携して、TT授業等の食育の授業も行っています。当センターでは、これからも安心安全でおいしい給食の提供とその給食を生きた教材とした食育の取り組みで、子ども達が心身共に健康で豊かな毎日が送れるよう、努めていきたいと思っています。

東松島市学校給食センター調理風景

和え室



揚げ焼き室



釜調理室



§ § § 平成 2 4 年度文部科学大臣表彰 § § §

おめでとうございます



優良校表彰 宮城県立利府支援学校

平成 2 4 年度学校給食文部科学大臣表彰

この度の全国学校給食研究協議大会で文部大臣表彰を受けられました。

宮城県立利府支援学校では、児童生徒一人一人の実態を理解し、教職員全員で給食指導に取り組んでいるとのことでした。栄養士が、個々に応じた献立を工夫し、新しい調理研究の試みや摂食指導に当たられている教職員の方々と給食感想簿での意見交換しながら、子どもたちの食に対する発達や発見の支援、そして歯科医による巡回摂食指導や研修会を長年継続して行うことで、直接的アドバイスしてもらい、先生方の指導の向上にも効果を上げているとのことでした。

また、保護者・近隣保育所、施設にも摂食についての正しい理解を深める摂食指導研修会を行い、地域のセンター的役割も担っているとのことをお話を伺いました。



おめでとうございます



個人表彰 仙台市立榴岡小学校 栄養教諭 千葉 冷子先生

昨年度の全国学校給食研究協議大会において優良校表彰を受けた仙台市立榴岡小学校様でしたが、今年度は、栄養教諭千葉冷子先生が個人として文部科学大臣表彰されました。千葉先生は、長年にわたり、学校給食に地元の野菜を積極的に取り入れ、地域の生産者や生産組合など多くの方々との交流を深めておられます。特に JA 仙台とのコラボレーションは、活動が明日を耕すプロジェクト『大地の学校』として、一年間のテレビ局の取材を受け、DVD 化されております。仙台市中心部の学校でありながら、栽培活動に積極的に取り組み、食を通して自然と命と地域を学ぶ取り組みを行っています。

地域の社会福祉協議会からの申し入れに連携を図り、高齢者と児童との「ふれあい給食」を実施して、「もったいない」の精神や食べることの大切さ、作ってくれた人に対する感謝の心など、豊かな人間性を醸成しています。これらを通して、給食を残さない＝残食なし、などの成果を得ているとのことをお話を伺いました。



地域の高齢者を招いてのふれあい給食風景

第63回全国学校給食研究協議大会に参加して

岩沼市立岩沼西中学校
栄養教諭 佐藤 有紀

11月15, 16日, 大分県大分市で「第63回全国学校給食研究協議大会」が開催(文部科学省, 大分県教育委員会, 全国学校給食会連合会などの主催)されました。全国各地の学校給食関係者約800人が参加し, 『『生きる力』を育む食育の推進と学校給食の充実～食べることは生きること。食べることは楽しいこと～』を大会テーマに学校給食の在り方を探りました。

15日は, 全体会があり, 豊後高田市内の小中学校の校長, 教頭, 栄養教諭の3人が実践発表を行いました。食に関心を持ち, 自分で考えて健康を追求していく児童生徒の育成を目指し, 学校・家庭・地域が連携して取り組んだ食育の成果を発表しました。また, 東京農業大学の小泉武夫名誉教授から「真の食育とは何か」と題して特別講演がありました。

16日は, 8つの分科会に分かれ, 学校給食を活用した家庭への食育の普及方策や地場産物等の活用方策などについて研究を深めました。中学校における食に関する指導の分科会では, 岩沼市立岩沼中学校栄養教諭の横山先生による実践発表がありました。

1日目の全体会会場で, トレードマークの赤いカチューシャと赤やピンクを基調とした洋服をお召しになった田中信名誉会長をお見かけしました。車いすに乗っていらしたものの, 元気なお声で周囲の方々に声をかけておられました。

来年の大会は, 10月31日(木), 11月1日(金)に三重県津市で開催されます。三重県には, 松坂牛や伊勢海老などの高級食材からB級グルメまで, おいしいものがたくさんあるようです。みなさんもぜひ参加してみませんか?

【大分県の郷土料理等】左から琉球丼, 関あじ, とり天



宮城県立利府支援学校の給食

とてもおいしい手作りハンバーグ



人気のスパゲティトマトソース給食



千草焼の卵とさといものそばろあんかけ



お正月料理給食「縁起料理を紹介」



安全安心のための取り組み

学校給食用物資の品質の安定維持と安定供給、そして物資の安全安心を確保するため、次の3つに分類される事業を行っています。

1. 細菌検査、放射能検査、遺伝子検査、残留農薬検査、小麦粉・精米の品位検査、敷地内の空間線量検査
※ 各種検査結果につきましては、ホームページに掲載していますのでご覧ください。
2. パン、米飯、麺の委託加工場への衛生指導・巡回指導、また、炊飯工場への飯量検査・量目検査、精米加工場を含めた委託加工場への巡回指導・立入検査
3. 精米委託加工工場連絡会議、学校給食用パン品質審査会、学校給食関連施設衛生管理等研修会、物資選定委員会などの開催

編集後記

プロジェクトチームを編成し、半年間準備を進めて、平成19年2月発行以来6年間休刊をしておりました「みやぎ給食だより」を発行することができました。

原稿、写真をご提供いただきました皆様、お忙しい中取材に応じていただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。今後は、年間2回の発行を予定し、さらに内容の充実を図り、学校給食を支援する役割を担って参りたいと考えております。

第1号

平成25年3月1日

編集・発行

公益財団法人宮城県学校給食会
仙台市宮城野区栢江17-1
TEL 022-257-2324
FAX 022-291-8203

印刷

新生印刷株式会社